

## 議事録

会議の名称	令和4年度第6回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和4年5月25日（水曜日）午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦会長、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、佐々木亮翔委員（※）、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、中嶋亮太委員（※）松川紀代美委員（50音順） 事務局：保谷企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹、鹿森企画政策課課長補佐、里企画政策課主査、小倉企画政策課主査、齋藤企画政策課主任、佐藤企画政策課主任、鎌田企画政策課主事 ※西東京市総合計画策定審議会の運営に関して必要な事項の制定について（令和3年10月21日付3西企企第231号市長決裁）第2の規定に基づき、出席扱いとする
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 （1）企業・団体等ヒアリング結果概要について（報告） （2）市民参加手法について （3）第3次基本構想・基本計画の構成について 議題3 その他
会議資料の名称	資料1 企業・団体等ヒアリング結果概要 資料2 シンポジウム（案）について 資料3 子どもワークショップ（案）について 資料4 市民ワークショップ（案）について 資料5—1 第3次基本構想・基本計画の構成について 資料5—2 他自治体の計画構成 資料5—3 他自治体の施策体系 資料5—4 他自治体の基本理念・将来像一覧 資料6 第3次総合計画策定に係るアウトリーチによる市民意見聴取
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
議題1 開会 会長より開会の挨拶	

## 議題2 諮問事項に対する協議検討

### (1) 企業・団体等ヒアリング結果概要について（報告）

事務局より資料1に沿って説明

○会長：

企業・団体等ヒアリングは、多面的に行政へのさまざまな声を集めることが大きなテーマである。市民協働や女性支援等の環境強化は市の強みになっている。弱みは情報発信力であり、市のブランド力をどう高めるかが課題である。

○委員：

子ども・子育て・学校教育の分野で市の弱みとして挙げられている「外部への情報発信」の「外部」とはどこを指しているのか。

○事務局：

明言はなかったが、市内外を問わず第三者への情報発信という意味と捉えている。

○委員：

多くの団体からの意見が集まり、多くの分野についての課題等がカバーされている。今回ヒアリングに参加した団体への今後のフォローをしっかりと行い、今後も総合計画の策定と一緒にやっていけるようにしたい。

○委員：

ヒアリング結果の報告はシンポジウムやワークショップの参加者に行うのか。

○事務局：

今回の企業・団体等ヒアリングの結果はシンポジウムやワークショップで紹介する予定である。

○委員：

「市民活動が活発」と「活動の担い手不足」、「買い物が便利」と「お店が少なく不便」のように、強みと弱みの両方で挙げられているテーマが特に大事なのではないか。

○委員：

ハンサムママ事業によって、若い人が西東京市で小規模事業を始めている。西東京市で2代、3代と続く事業者は少なくなっているため、情報発信を活発に行うべきと考える。

○委員：

情報発信は、市民ではなく市外に対して弱いのか。企業・団体等は情報発信をどのような目的で行っているのか。

○事務局：

企業・団体等ヒアリングの回答によると、情報発信は市内外どちらも不足している。それぞれの団体等の活動を知ってもらうことで活動しやすくなる他、協力者が増えるというメリットがあると認識している。

○委員：

都市計画マスタープランは総合計画と同時並行で進んでおり、総合計画で実施した市民意識調査の結果を情報共有して課題分析を行っている。企業・団体等ヒアリングで弱みとして挙げられている買い物の不便さについても、都市計画マスタープランの検討において、どの地域で問題となっているかについて分析を行っており、地域の特性をどう変えるのか議論する必要がある。総合計画と都市計画マスタープランの策定を連動しながら進めていく必要がある。

○委員（録画参加）：

企業・団体等ヒアリングの結果概要の「その他」にある「『どこに住んでるの？』『西東京市』『ああ、〇〇が充実していて良い町と聞くよ』と言う会話を他市の人とするのが私の願い。」という意見に共感した。大学で「西東京市に住んでいる」と言っても相手に通じないため、西東京市の有名なものをもっと増やしたい。

## (2) 市民参加手法について

事務局より資料2、資料3、資料4及び資料6に沿って説明

○会長：

シンポジウムには審議会委員もぜひ参加してもらいたい。シンポジウムの開催によって若者の市政への参加を促したい。ワークショップの見学も可能であるため、そちらもぜひ委員に参加してもらいたい。

○委員：

シンポジウム会場であるコール田無の定員は何人か。企業・団体等ヒアリングで弱みとして挙げられた情報発信をどうするかが見せ所であると考え。7月2日のシンポジウムのお知らせを6月15日号の市報に掲載するスケジュールはややタイトであると感じるため、事前にSNSをどう活用するかが重要である。

○事務局：

コール田無の定員は160名程度であるが、コロナウイルス感染症の感染状況によって流動的になる。シンポジウムの広報については市の広報誌・ホームページ以外にLINE等のSNSを活用する予定である。

○委員：

シンポジウムのライブ配信は非常に良い取組である。西東京市にはPR親善大使が多くいるため、PR親善大使を活かした情報発信をしてもらいたい。

○委員：

YouTube配信を見ている人も意見を言える仕組みがあると良い。

○委員：

シンポジウムやワークショップの名称の「ミライ」はなぜカタカナなのか。漢字の「未来」にカタカナでふりがなを付けるなら良いかもしれないが、カタカナにする意図が分からない。

○事務局：

少しでも若者の目に留まるように、固いイメージの漢字表記はやめて、あえてキャッチーなカタカナ表記にしている。

○委員：

私も違和感を覚えるが、良い意味での違和感であり、その違和感により、目が留まり、興味を持ってもらえるかもしれない。

○委員：

カタカナの方が若者は受け入れやすいのかもしれない。

○委員：

シンポジウムでは、さまざまな意見を聞くだけで終わりになりがちで、それらの意見がどのように計画に反映されているかが見えにくい。パネラーが決定したら、どのようなまちを望んでいるかといった彼らの提案を事前に聞いて、シンポジウム本番までにある程度事務局で咀嚼して本番の議論に活かしてもらいたい。

子どもワークショップでSDGsが取り上げられていて嬉しい。最近では「スポGOMI」というゴミ拾い競争のスポーツがあるため、今後の参考にしてもらいたい。

○会長：

ミライの表記については、本日の意見を踏まえて事務局で検討して決めてもらいたい。

○委員：

子どもワークショップのプログラムはとても良いと感じた。子どもを対象とした意見聴取は、まちの未来について考えてもらうものと、「子ども」目線から見て「子ども」にとってどんなものが必要かを問うものの2種類がある。その点を分けて子どもの考えを聞くと充実したものになると考える。

○委員：

SNSだけでなく、地域コミュニティに直接情報を届けることも重要である。若者と接点がある部署もあるため、そこが直接声をかけると良いのではないか。また、子どもワークショップに参加した子どもが、家に帰ってから家族や友達にインタビューするプログラムもあると良い。

○会長：

子どもワークショップの参加者が家に帰って親世代の話聞くことは重要である。自分のこれまでの経験では、大人、特に子育て世代にまちづくりへの関心を持ってもらうことは難しかった。ぜひワークショップにそうしたプログラムを取り入れてもらいたい。

YouTube配信はライブ配信のみか、限定公開なのか。

○事務局：

現時点の段階では、ライブ配信と期間限定のアーカイブ公開を予定している。

○委員：

シンポジウム参加者やライブ配信視聴者からも意見を聞けると良いが、意見を聞く範囲はある程度定めるべきである。

○会長：

シンポジウム参加者へのアンケートは実施するのか。その他の情報収集は何を検討しているか。

○事務局：

シンポジウム参加者には、紙ベースでのアンケートを予定している。ライブ配信の視聴者へのアンケートも検討している。

○会長：

意見を聞く範囲を広げすぎるとまとまりがなくなり、取りまとめの作業負担も重くなるため、一定範囲については検討する必要がある。

○委員（録画参加）：

まちづくり人生ワークの中の「恋人に西東京市を初めて紹介します。どこを案内しますか。」という質問が一番西東京市のことを考えさせられて良いと思った。子どもワークショップでも、好きな人や友達を案内するとしたらどこにするかという質問を設けたらおもしろいのではないか。

### (3) 第3次基本構想・基本計画の構成について

事務局より資料5-1、資料5-2、資料5-3及び資料5-4に沿って説明

○委員：

第2次総合計画後期基本計画の策定に当たって、前期の施策評価は実施したのか。

○事務局：

実施している。

○委員：

第2次総合計画後期基本計画の構成や施策が良かったか悪かったかは明確になっているか。

○事務局：

今後の施策評価を踏まえて検討する。

○委員：

現状の分野構成についての理解が必要である。市の部局ごとの構成はあまりしない方が良い。例えば都市計画マスタープランでは、都市農地の保全を防災上の取組にも位置付ける必要が出てきており、施策に分野間で立体的に部局連携して取り組むことが今後さらに求められる。時勢に応じた機動的な施策体系があると良い。個別的な政策議論であるためトップダウンで構築することは難しいが、施策評価と組み合わせて施策体系を改善してほしい。

○委員：

他市の計画は堅くて分かりにくいものもあり、市民が理解できるのか疑問に感じた。西

東京市の現行計画はワードが分かりやすく、とっつきやすい。計画の構成においては、各自治体が重視していることが先頭に出てくるのではないかな。

○委員：

まちが過ごしやすくなると子育て世帯が増える。これは一見良いことに思えても保育園や学童が足りなくなってしまうため、長期的・作戦的な視点に考えることが必要である。各種のさまざまなデータや調査結果を重層的に見ることができるようになると良い。

○委員：

とても大事な視点である。一つの分野のみ進めると、別の分野にマイナスが生じる。そのバランスを取るため、大前提となる目標を総合計画に定めるべきである。今後の第2次総合計画の施策評価を鑑みて議論したい。

○会長：

施策評価はとても重要である。施策評価の情報を共有する予定はあるのか。

○事務局：

施策評価の結果は今後の審議会で報告する。

○委員：

施策は成功ばかりではない。施策評価と市民の評価のバランスを取ってほしい。

○会長：

施策は、自治体内部の評価、市民・団体の評価、10年後を考えたビジョンの3つが重要である。自治体内で今後の事業のあり方や行い方についても共有してほしい。

○事務局：

施策評価は市民意識調査の結果を踏まえて実施する予定である。これらの意見を踏まえながら、将来的な施策の方向性等を施策評価で示していく。

### 議題3 その他

○事務局：

次回審議会は8月末から9月上旬の開催を想定している。土日や夜間に開催する可能性もある。

事務局より行政サービスにおけるエリア（圏域）について説明

事務局より子ども・地域応援企画提案事業について説明

○会長：

第6回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)